

いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.23

2003. 5. 1 発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会

〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2-2511

厳しさを増す町の財政 — 2

どう使われる一般会計 — 3

主な質疑 — 4

議員数削減の協議進む — 5

常任委員会の活動 — 6

12議員町の考えをただす — 8

豆知識 — 19

地場産業の活性化を — 20



はじめての
参観日

予算を可決 億8,800万円

8,990万円

簡易水道	2,632万円
集落排水	2,879万円
住宅新築資金	1,443万円

8億3,200万円

注目の予算

- 子育て支援事業費 **2,378万円**
 - ・その中で約870万円で沼江保育所跡を子育て支援の拠点施設として改修する
- 国土調査事業費 **294万円**
 - ・地籍調査の準備に要する費用
- 電源地域産業育成支援事業費 **302万円**
 - ・与川内ホテル祭り 約130万円
 - ・勝浦高校実習園跡地を市民農園として活用する準備に要する費用 約170万円
- 基盤整備促進事業 **2,021万円**
 - ・今山農業用水を改修する
- 農村と都市の共生と対流事業 **382万円**

3月定例会

厳しさを増す町の財政

地方交付税 **一億七千八百万円減**

財政調整基金 **一億八千八百万円繰入れ**

三月定例会は、三月十一日から二十五日までの十五日間開かれ、議員提出議案を含む二十六の議案を審議しました。地方交付税などの歳入減を財政調整基金で補うなど、厳しさを増す一般会計予算案など全議案を、全員一致で可決しました。一般質問では、議長を除く全議員が町の考えをただしました。



沿江保育所跡 子育て支援の拠点施設に

15年度

一般会計 **32**

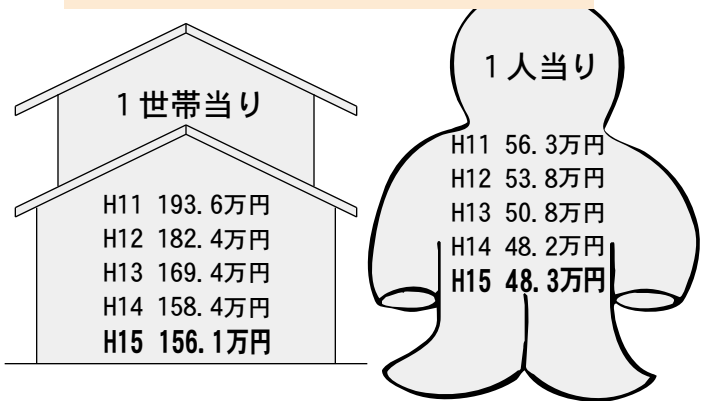
特別会計 **23億**

国民健康保険 7億4,479万円

老人保健 9億8,047万円

介護保険 5億9,510万円

一般会計予算の推移



病院事業特別会計

どう使われる一般会計

森脇和一氏(沿江)の推せんに同意
人権擁護委員に

総務費



115,218円
(121,863円)

民生費



72,103円
(60,702円)

衛生費



37,933円
(32,668円)

農林水産業費



38,969円
(51,032円)

土木費



35,604円
(35,438円)

消防費



5,597円
(5,084円)

教育費



40,060円
(41,381円)

災害復旧費



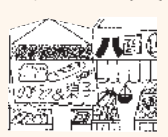
1,980円
(1,952円)

議会費



8,464円
(8,079円)

商工費



1,239円
(1,205円)

公債費



124,170円
(121,185円)

予備費



1,911円
(1,890円)

一人あたりの予算は ()内は前年度

質 疑

介護保険 今後の改善策は

問 見直して四割近い増額になっているが、将来さらに大幅に引き上げられるのではとの心配もある。今後の改善策は。
答 福祉課長 サービス内容の向上に努めると共に、できるだけ寝たきりを防止する策を考えていきたい。

同和団体助成金 三年後には廃止の方向

問 同和对策事業県町村会負担金が、百八十五万三千円と数年前よりかなり減額されているが、あと何年で廃止できるか。
答 町長 二年間で三十三%以上削減したので、あと三年で廃止できると思う。

花嫁、花婿相談員 世話人謝礼金は必要か

問 花嫁、花婿相談員の世話人謝礼金三十五万円の予算は必要か。
答 産業振興課長 後継者対策として必要と思う。

ごみ処理費 節減できないか

問 じんあい処理費は毎年八千万円余りの予算だが、節減は考えられないか。
答 住民課長 毎年オーバーホールを行っているので大きな予算になるが、施設を長持ちさせるには、早期に対応していくのが一番良いと思っている。

立川地区建設資材置場 建設反対の請願を採択

棚野区、立川区、土地改良区、大井ぜき土地改良区、立川地区環境整備連絡協議会の5団体から提出された請願を全会一致で採択しました。



請願提出者が議会を傍聴

勝浦病院 一般会計からの繰入れにも限度があるのでは

問 病院を存続させていくというが、一般会計からの繰り入れが一億円ぐらいになっている。限度があるのでないか。
答 町長 財政が厳しくても最重要なものとして取り組んでいきたい。

農業集落排水事業 公債費は使用料に算入しない

問 利用料を設定した時、借入金返済分まで使用料で賄うことになっていったのか。
答 住民課長 平成七年四月の議会全員協議会で、借入金の償還は、使用料に算入しないことに決めている。

主 な



畳取り替え予定の町営住宅

4回の全員協議会で 議員定数削減の 協議進む

一市四町で進められていた合併協議会が、三月三十一日廃止され、合併の見通しが立たなくなってきたことから、なお一層の行財政改革が必要であり、この際、議員定数を削減して協議会が範を示すべきだとの意見が出て、全員協議会を開き協議しました。

その結果、六月二十九日に行われる議会議員選挙から適用するためには、五月のなるべく早い時期に臨時会を開き、議員が提案して結論を出すことに決めました。

総務管理費 人件費などで五千四百万円減

問 総務管理費が七億八千四百万円と十四年度より五千四百万円程度減っているが、要因は。

答 総務課長 人件費の削減が主である。

住宅管理費 委員会の指摘で半額に

問 町営住宅の畳の取り替え費として七百十九万円を計上しているが、一度にこんなに必要なのか。

答 住民課長 厚生委員会の指摘を受け、再調査し、必要最小限で執行することにしたので、予算の半額程度でできると思う。

一市四町合併協議会の 廃止を可決

昨年6月に設置された、小松島市と勝浦、上勝、羽ノ浦、那賀川の一市四町合併協議会は、脱退する町が相次ぎ、廃止することを全員一致で可決しました。

議員提出議案

- ◎四国横断自動車道 阿南—鳴門間の整備を促進する意見書
- ◎有害鳥獣駆除(捕獲)許可の権限委譲を早くすることと、許可の基準を緩和することの意見書

全員一致で可決し、関係機関に提出しました。

産業建設

地籍調査

三十五年かかる見通し

三月五日、二十四日、委員会を開き、十四年度補正予算、十五年度当初予算および議員提出議案などを審議しました。

建設課長から 建設課の十四年度補正予算は、一千九百九十四万円の減額、十五年度予算は三億六千三百万円との説明がありました。

問 河川草刈りの一部を県が見てくれたのか。

答 建設課長 二百万円ぐらいの助成がある。

問 地籍調査は何年で完了するのか。

答 建設課長 一年に二回ぐらいしかできないので、今後、三十五年かかる見通しである。

問 町道認定で問題があった与川内木小屋線の改良はできたのか。

答 建設課長 工事は完了している。

委員会として 提案することを認めました。



河川の草刈りに670万円の予算

議員提出議案として

・四国横断自動車道阿南―鳴門間の整備を促進する意見書
・有害鳥獣駆除（捕獲）許可事務の権限委譲に係る意見書
（内容）

- 一、許可事務権限を十五年度の早期に市町村に委譲すること
 - 二、許可基準の緩和をすること（特にみかん収穫最盛期を迎える狩猟期前十五日の期間は被害が多発しているので、駆除が認められるよう配慮すること）
- 二件の意見書を本会議に提出することにしました。

の活動報告

厚生 沼江保育所 子育て拠点施設に改築

一月三十日、三月三日、三月六日に委員会を開き、十四年度補正予算、十五年度当初予算および沼江保育所の廃止に伴う利用計画などについて説明があり、審議しました。

問 沼江保育所跡地の利用計画までの経緯は。

答 町長 保育所を二年間休止していたが、昭和の合併時に地元との約束があり、新たな公共施設を検討してきた。

問 施設をどう利用するのか。また、管理は。

答 町長 町全体の子育て支援事業として、跡地を有効利用したい。事業主体は町で、管理はNPO法人に無償で委託して事業を進めていきたい。

問 事業費と内容は。

答 福祉課長 八百七十万六千円で、子育てサークル活動室の改修と、幼児用の遊具や卓球台などの備品購入、警備委託料である。



子育て支援を強化

農業集落排水事業 加入者の見通しは

問 加入状況と見通しは。

答 住民課長 十四年度は一戸の加入で、六十五%の供用率となっている。一人暮らしや高齢者が多い上、工事の難しい箇所もあり、今後、加入者の増加は厳しい状況である。

委員会として 提案を認めました。

総務

節約と予算末消化などで 1億1千万円を積立

三月四日に委員会を開き、十四年度補正予算と、十五年度当初予算案などの説明があり、審議しました。

【理事者側から】十五年度予算は、昨年対比〇・九%（三千万円）の減であり、財政調整基金から一億八八百万円を取り崩し編成したと説明がありました。

プレミア付商品券を 増額

問 勝浦高校実習園跡地の利用計画の予算や、役場の冷暖房設備の改修などが消化できずに残っている。当初の調査が十分できていなかったのではないか。

答 総務課長 当初予算を組んでいたが、取り組みができなかった。

答 町長 冷暖房設備の改修はより厳しく見直した結果である。

問 予算編成で特に配慮したことは、助役 交付税は減額された中で、

沼江保育所の跡地利用などの子育て支援や、基盤整備など農業振興に重点を置いている。また、プレミア付商品

券の増額もした。

問 合併予算を予

備費に計上するのは問題でないか。

答 町長 首長間との協議で、四町とも予備費で計上することにした。

問 予算の不足分を補うための臨時財政対策債は、いつまで借りられるのか、また償還期限は。

答 総務課長 十六年度以降はわからない。三年据え置ききの二十年償還である。委員会として 提案を認めました。



商品券は増額

常任委員会

総務常任委員会視察報告

地産地消に取り組み十年

島根県大厚郡木次町きすき

二月二十四日から、島根県大厚郡木次町で、学校給食への地産野菜の供給について、視察研修を行いました。

木次町は、宍道湖に近い人口一万人余りの町で、心豊かな創造性あふれる人づくりを基本とし、工業団地や、流通団地の整備により、四十四社で千六百人が働いています。

町長の発案により、平成五年、中山間地の農業の振興と健康な子どもの体づくりという願いから、農業者グループに働きかけ、「学校給食野菜生産グループ」が設立され、地元産の旬の野菜を給食に使用しています。

役員会を月一回開催し、出荷量や単価を決定しています。給食センター側の対応は、毎日職員一人が三十分早く出勤し、出荷された野菜を受け取り月末には、出荷額を計算し、個人の預金口座に振り込みをしています。また、春・夏休みには季節の野菜をまとめて冷凍しています。問題点としては、野菜洗浄に時間がかかることや、品質の不揃い、注文の品が揃わないことだ

そうです。

勝浦町も十四年四月から、米はJAを通じ、地元産を使用しています。また、野菜は昨年十二月から地元産を一割程度使用していますが、今後、なお一層使用量の拡大が求められます。



地元産の野菜を給食に

遊休地を活用し活性化を

「やすらぎの森」で支援したい

(産業振興課長)

森 敏治 議員

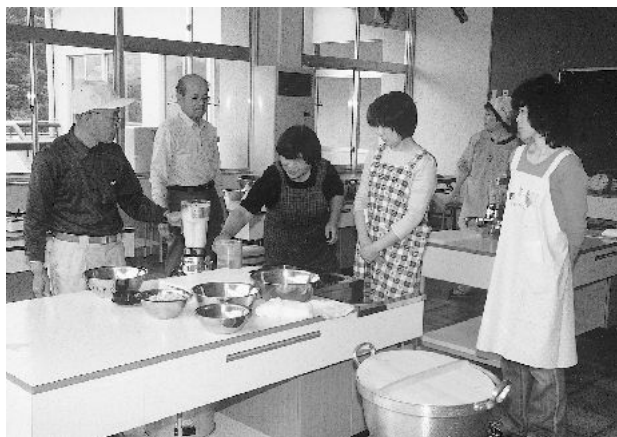


問

「ふれあいの里さかもと」をさらに発展させるため、施設周辺の遊休地を活用し、四季折々に色どりの感じられる山里を想定した村づくりを計画しては。

答

戸川産業振興課長 利用されていない土地を整備・活用することは重要である。育樹活動支援事業により「やす



ふれあいの里さかもとでの料理実習

らぎの森」をつくり、自立をめざす地域の支援をしていきたい。

問

京阪神の小・中学校から宿泊体験に来てもらうため、教育委員会の協力があれば大きな効果が期待できると思うが。

答

教育長 子供たちに、健全育成のために、いろいろな体験学習を関係機関に知らせ、一人でも多く来てもらえるよう、産業振興課と「ふれあいの里さかもと」が連携し協力したい。

外から見た

町の感想は

住民の環境に対する姿勢はすばらしい (理事)

問

二年間、県から出向して勝浦町がどのように映ったか。また、町職員や住民に期待するものは。

答

理事 住民が、水と緑の美しさ、自然環境を守ってほしいこととする姿勢はすばらしい。また、区長を中心とし



郵便局は身近な存在

た町づくりはまとまりがある。職員が地域住民の中にとけ込んで町の進むべき方向等情報提供すれば、さらにすばらしい町づくりができると思われる。

ワンストップ

行政サービスを

問

坂本地区は高齢者は身近な存在である。住民票や、各種証明書

答

等が郵便局を利用して役場に来なくても受けられる「ワンストップ行政サービス」の制度をとり入

れてはどうか。

答

山平住民課長 多くの経費が必要であり、導入の計画はないが、住民サービス向上のため慎重に検討したい。

介護保険料

問

六十五歳以上の一号被保険者の基準額を中心として引き上げをされようとしているが、値上げの要因は。

答

光井福祉課長 七十五歳以上の後期高齢者の増加に伴い、サービス利用者が増えたことである。

交流による

町づくりは

問

交流による町づくりが十五年度予算に十分反映されたか。

答

町長 厳しい財源の中で与川内のほたる祭り、勝浦高校実習園跡地利用、「ふれあいの里さかもと」への支援等積極的に取り入れた。

市町村合併

独自の町づくり

も必要では

問

一市四町合併の枠組みが崩れたが、今後、生き残りをかけ町独自の町づくりを考え、貧しく、美しく、つつましくやかに生きることも一つの選択肢でないか。

答

町長 合併は基本的に必要である。原点到立ち、一喜一憂しないで将来を見据えていかなければならない。今後、議会や住民の意見を聞く中で対応したい。

合併今後の方策は

白紙の状態で（町長）

川端雅夫 議員



ており、職員とも十分話し合い進めていきたい。

問 合併を進めるには町長のリーダーシップが問われている。職員とのコミュニケーションを図っていかなければ改革も進まない。

そのためには、町長の姿勢も改革しなければ職員の理解も得られないのでは。

答 町長 今以上に厳しく自分を律して町のために先頭に立っていききたい。職員も意識改革が必要であり、その姿勢がなければならぬ。

問 一市四町の合併協議会が三月末で解散することが決まったが今後、どのような方法で合併協議を進めていくのか。

答 町長 全て白紙の状態、議会や住民と十分議論して対応したい。

問 合併は行財政改革が主たるものであるが、今後、役場内の改革をどう進めていくのか。

答 町長 今までも行財政改革、機構改革を実施してきたが、ますます厳しくなってきた。

小学校でもっと英語の授業を

学生の国際交流を

問 現在、外国語指導助手のロビンさんが小学校に出向き、遊びを通じて英会話を教えているが、今後、週一、二回英語に慣れ親しむ機会を作ってはどうか。

答 福徳教育委員会事務局 勝中 授業のほかに月二回ずつ小学校に勤務しており、今以上に小学校に配置するのは無理と思う。

問 学生の海外派遣と海外からのホームステイの受け入れについて、費用の一部を町負担できないか。

答 福徳教育委員会事務局 勝中 海外派遣して外国を知ってもらうことは大変有意義なことであるが、滞在期間、人数、経費負担をどうするかなど慎重に検討していく必要がある。また、受け入れについては、県文化国際課の指示を仰ぎたいと思っている。



合併協議会 3月末解散

阿南市への通学生足の確保は

南海地震の対策は



利用拡大はできないのか

問 阿南市内の高校に通っている生徒は通学に大変不便をきたしている。スクールバスや徳島バスを利用できないか。

答 福徳教育委員会事務局 高校は義務教育ではないのでスクールバスは使用できない。徳島バスについては、会社と相談していないので答弁はできないが、無理と思う。

問 今後、三十年の間四十%の確率で南海大地震が起きると予測されているが、病院や小・中学校などの公共施設に補強対策が必要とと思うが。

答 町長 まだ計画もしていないし、補強をどうするか対策は難しい。

問 地震の時には、防災無線が大きな役割を果たすが、早急に整備を進めるべきではないか。

答 町長 現在の機械設備を修繕しながら使用していきたい。

勝浦高校実習園跡地

市民農園開設のねらいは

町づくりの波及効果を期待

(産業振興課長)

森 健 議員



による町づくり事業への波及効果を期待している。

問 事業の進め方は。

答 戸川産業振興課長 産業育成支援事業により、地域住民を中心

とした検討委員会を組織し、専門家の助言、先進地の視察やアンケート調査等を実施して、九月末までの制約の中で地域と話しをしながら事業を進めていきたい。

「アグリ情報勝浦」発行の継続を

資料提供等で対応したい
(産業振興課長)

問 「アグリ情報勝浦」は、本年三月号で発行を終了するというがこの情報紙は内容が簡潔で解りやすく、専業農家から家庭菜園者にまで簡単に利用できた。農家や産地を守るためにも農業情報、技術情報は大切だと考える。情報を得るためには普及センター、JAに電話で問い合わせとあるが、担当者が会議等で留守がちであり、即対応とはいかないので継続の再検討をしようか。

答 戸川産業振興課長 四月から毎年一回開催の営農講座やJA東とくしま両支所、よってネ市等での資料提供を考えている。不在時の対応は、携帯電話やメモ等で連絡ができるシステムを考えている。

沼江保育所跡地活用は

子育て支援の拠点施設に

廃止される沼江保育所を町の子育て

光井福祉課長 この施設は、昭和の町村合併時に地元の高い要望で建設され、廃止するときには公共施設として残してほしいと聞いている。希望も多いことから、子育てサークルや異年齢児の交流場所を設け、町内に情報を発信し、子育て支援の拠点施設として整備を計画している。国や県の有利な補助事



子育て支援の拠点施設に活用

業を受けて事業を進めた。施設の管理はどうするのか。

問 施設の管理はどうするのか。

答 光井福祉課長 管理と子育てサークル活動の助言や協力は、NPO法人「ライフサポートかつら」にボランティアで委託協力を考えている。

問 パイロットの実習園跡地を活用して、市民農園を計画しているが、目的と期待する効果は。

答 戸川産業振興課長 農業を町づくりの基本としているので、都市と農村の交流を考えることによって、農村が持つ多面的機能を生かし、ビジネスにつなげることが大切と考えている。また、地域の活性化や交流



市民農園として開放予定の勝高実習園跡地

新たな合併に向けての課題は

意識改革が必要だ（町長）

押栗義雄 議員



らない。行政改革大綱は、今年度中に見直しが必要だと思う。

答 理事 合併に関しては、今後も説明会など怠りなく進め、住民意識の向上を図ることが大事だと思う。また、

役場内の改革を住民に十分示して、共に痛みを負っていくという姿勢が必要だと思う。

有害鳥獣駆除 権限委譲を

早急に

問 鳥獣が農作物に甚大な被害を与えているが、その対策は。また、来年度県から町に有害鳥獣駆除の権限委譲があると聞かすが、もつと早く行うよう要請すべきでないか。

答 町長 十五年度予算で買上げ費の増額をしているが、必要があれば補正で対応したい。また、権限委譲については早急に県へ要請したい。



ワナで捕えられたイノシシ

問 一市四町の合併が厳しい状況の下で、行財政改革の具体策と、新たな合併に向けての課題は何か。

答 町長 住民、職員が必要だと思う。財政の厳しさをもつと十分説明するなど、合併に向け先頭に立って頑張っていきたい。

答 助役 町の財政は三年後に非常に厳しくなる。まず職員がそれを認識し、率先して改革に取り組まなければならない。



コスト削減で早期完成を

答 戸川産業振興課長 有害鳥獣駆除は、猟友会と連携を図ると共に、ワナの許可申請について中山間の集落に情報提供を行うなど、積極的に取り組みたい。

少子高齢化の

対応は

少子化対策に重点を移す（町長）

問 少子高齢化対策は、今後の重要な行政課題だと思いが、基本的な考え方と対応は。

答 町長 高齢化対策は、特養の増設を

計画するなど、かなりやってきたと思っている。今後は、少子化対策に重点を移し、補助事業を活用して、子育てしやすい町づくりにより一生懸命取り組む。

東部広域農道

十年後完成

不可能では

問 コスト削減で開通を（建設課長）

答 東部広域農道と南部農免農道の二次採択後の年次計画は、また、東部広域農道は、平

成二十五年事業完了と聞か、不可能ではないか。坂井建設課長 国の農道事業見直しもあり、県も今は具体的にわからないとのことだが、できるだけ早く事業計画を示すよう要望してある。また、十年間で事業を完了させるには道路幅の見直しをするなど、コスト削減を図るよう国と県に要望して、開通に向けて取り組む。

簡易水道

町営化への取り組み状況は

問 簡易水道の町営化に向けた取り組みの状況と、今後の対応は。

答 山平住民課長 現在では、十三組合のうち四組合が町営に賛成である。借入金の状況や、使用料の格差、覚え書などがあり、調整が難しい。ある程度の統合ができた時点で、数段階に分けて町で管理をしていくのがよいと思う。

合併協議会設置

間違いではなかったか

貴重な体験を今後にも（町長）

原田昭三 議員



とについては謙虚に反省している。貴重な体験を今後にも十分生かしていきたいと思う。

答 理事 協議会に要した経費は四百五十万円程度と思う。

学校給食 地産地消を

問 食料品は輸入産物があふれており、残留農薬が検出されている物も多い。学校給食にこれらの食材を使うことよって子供の体がむしばまれ、今までになかったような病気が出ている。学校給食に地元の農産物を使ってはどうか。また、現在使用している地元産はどれくらいか。

答 福徳給食センター 所長 地元でとれた新鮮で安全な食材を使ったおいしい給食をと考えて、十四年四月一日から地元産米「ぎぬひかり」を使用している。また、野菜についてはJA勝浦

介護保険料の 減免を

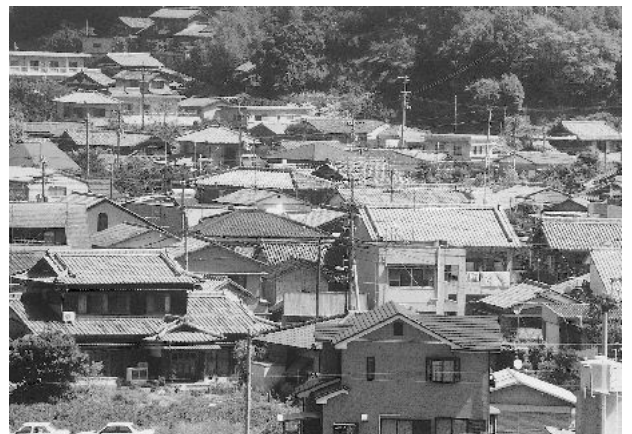
問 介護保険制度が始まって三年が過ぎる。本年度は見直しの年である。改定内容では、保険料一人平均一カ月三千四百円が四千二百円と大幅値上げになっている。

改定期期には低所得者に対して減免制度を検討するとの答弁であったが、十五年度予算に計上されていない。今後、減免をすることを考えるのか。
答 町長 いろいろ検討しているが予算化するまでには至っていない。

介護認定者の 税金申告は

問 今までは障害者手帳を持っている者

だけが税金の控除を受けられていたが、今後、介護認定者にも拡大するという県からの文書があったと思う。町はこれをもとに検討し、対応してきたのか。
答 光井福祉課長 所得税法上の規定はないが、六十五歳以上の人で同程度と町長が判断した場合は、障害者控除の認定書を発行することができる。また、本町では要介護四と五は発行している。三は、医師の見書で六カ月以上の寝たきりにについては発行するようにしている。その他



住宅改修に補助制度を

は判断基準が異なるので不公平が生じるため発行はしていない。

住宅リフォーム に助成を

問 建設関係の仕事がなく生活に困っている人が多い。緊急不況対策として個人住宅の改修に補助制度を作ることによって、町の活性化になるのではないか。
答 町長 財源が厳しいので取り組みはできない。

問 昨年の一市四町のトップ会談で合併推進を決めたことや、住民の意見を十分聞かず、法定協議会を設置したことは間違っていたのではないか。
また、今までの経費はいくらだったのか。

答 町長 一市四町の立場をよく考え判断して決めたことであるが、結果的には協議会を解散しなければならなかったこ



学校給食に地元産野菜を

市町村合併

新たな枠組みへの課題は

町民、議会、行政が一体となった取り組みを
(理事)

中田丑五郎 議員



一体となって取り組まなければ前に進まない。職員も町民も共に痛みを負う中で、新たな枠組みについて十分議論をして次のステップに進むべきである。

問 特例法期限内の合併を目指して、今後、いろいろな枠組みの

パターンを示して説明するのか。

答 町長 基本的な問題については、議会や職員などと検討して決めていきたい。町民には、今までの反省を踏まえいろいろな問題について十分説明をしていきたい。

問 町民に引き続き合併に対する情報を提供し、町民と行政が一体となって合併議論を進めるため、役場内に「まちづくり課」を設置し、今後、合併に対する情報収集や調査研究をする組織体制をつくっては。

町民に引き続き合併に対する情報を提供し、町民と行政が一体となって合併議論を進めるため、役場内に「まちづくり課」を設置し、今後、合併に対する情報収集や調査研究をする組織体制をつくっては。

答 町長 新しい課の設置は今のところ考えていない。

十五年度予算編成 財政運営の 見通しは

問 十八年度に極めて厳しい財政運営に陥るおそれがあると言われているが、危機的な状況を回避するには何をすべきか。

答 助役 歳入の伸びが見込めない状況の中で、議会では定数や報酬の減を、行政も人件費等の節約を行い、自らを削って範を示している。町民にも理解と協力をしていただかなければ現状維持はできない。回避する方策として市町村合併が避けて通れないと思っている。

新行政改革大綱 の見直しを

一段と厳しい
見直しが必要(町長)



防犯灯の移転は可能

問 新行政改革大綱は十六年度までの実施計画となっているが、財政状況が一段と厳しさを増しており、財政健全化計画を推進するため、十五年度中にさらに厳しい主要課題の目標設定をして見直しを行う必要があるのでは。

答 町長 もう一段厳しい見直しをする必要があると認識している。十五年度から見直しを行う。

防犯灯を新たに 設置しては

問 防犯灯の設置基準と、新たに設置し

ない理由は。

答 秋本参事兼総務課長 設置基準はとくに定めていないが、維持管理費が多くなるので十年前から新たな設置はしていない。

問 小・中学生など町民がよく通行する町道で真っ暗な場所があり、防犯灯設置への強い要望がある。地区で電気の一部負担をすれば新設はできないか。また、既設の防犯灯の移転は可能か。

答 秋本参事兼総務課長 消防団の分団長会議などで検討したい。また、移転については、地区から要望があれば対応している。

問 一市四町の合併協議会が解散することになった。合併の難しさ、反省すべきことなど多くの教訓を残している。今後合併に向かって進んでいかなければならない中で、新たな枠組みに取り込む課題は。

答 理事 合併は行政だけでやっていくのは困難で、一市四町の枠組みでも明らかのように、町民、議会、行政が



一体となって合併論議を

防災無線やり替えては

十五年度に調査検討する(参事兼総務課長)

福徳重二 議員



老朽化した防災無線

問 防災行政無線は老朽化し町民から聞こえにくいとの苦情が多い。特に災害時には、町内全域に知らせることができなければならぬ。そのため早急にやり替えてはどうか。

答 秋本参事兼総務課長 設置して二十年経過し、耐用年数を大きく過ぎており機器の補修が必要である。抜本的な解消はやり替えたが、補助事業や町の財政をみながら十五年度に調査し検討する。

補助金の 一割カットは 能がない

一割カットは公平だ (町長)

問 補助金、助成金を交付している団体がたくさんあるが、何十年も見直しをせずやと十三年度に一律一割カットを実施した。十五年度予算でも昨年と同様で、あまりにも能がなさすぎる。来年度は必要・不必要を調査して予算を組むべきであると思うが。

答 町長 十分検討した後、公平性を考え一割カットをした。今後はそれぞれの団体の意見をよく聞き不公平にならないよう検討してみた。

住基ネット トラブルは

一部に不参加や選択性を採用したところもあったが、昨年八月から全国ほとんどの自

問 一部に不参加や選択性を採用したところもあったが、昨年八月から全国ほとんどの自

治体が住民基本台帳ネットワークシステムを取り入れた。コンピューターは必ずトラブルが起こり個人情報もれる恐れがある。また、制度面でも十分な個人情報の保護はできている。今後、個人情報の保護については万全の措置を講じていきたい。



個人情報の保護に万全の措置を

その後、徳島大学、鳴門教育大学の調査で、県内の自治体の六割が安全性に欠陥があるとの結果

答 山平住民課長 トラブルは起きていない。また、制度面でも十分な個人情報の保護はできている。今後、個人情報の保護については万全の措置を講じていきたい。

し尿処理申請 不許可の根拠は

問 新しくし尿くみ取り業の許可申請があったが、町は生活排水処理基本計画に基づいて検討した結果不許可としたが、その根拠は。

答 山平住民課長 将来の人口減に伴い、処理量に大幅な増加がないことから一業者で処理できると判断した。

合併協議会設置 急ぎ過ぎたのでは

問 町の将来を決める大きな市町合併を、町民に十分説明せずに首長主導で構想を打ち出し、不幸にして協議会解散となった。これは協議会設置を急ぎ過ぎた結果でないか。

答 町長 それぞれの首長がお互いの考えをもって進めたことである。他町の事情もあり解散もやむを得なかった。貴重な経験を今後に生かしていきたい。

地籍調査

早く取りかかっては

十六年度から実質的な作業に (建設課長)

中西晴美 議員



である。

問 十五年度後半から作業に着手できる

よう進めてはどうか。

答 町長 時間的な余裕があれば実施しても良いと思う。

住宅新築資金 滞納者の解消を

問 住宅新築資金の滞納者をどのような方法で解消するのか。

答 町長 現在、九人の滞納者がいるが、いろいろ難しい問題もあり、法的措置がいいのかどうか検討していきたい。

商工業の 振興対策は

問 町内の商工業者は年々売上げが減少し、非常に困っている。

今後、どのような振興策を考えているのか。

答 町長 車社会であり、品揃えも豊富な町外へ流出する傾向もある。行政もできる範囲で支援していきたいが、業者も知恵を絞り対応してもらいたい。

上勝町との 合併交渉を

問 合併協議会は三月末で解散することになった。今後、勝浦町と上勝町が速やかに合併できるように交渉を始めるべきでないか。

答 町長 町としても反対であるが、今後、情報をキャッチしながら、町村合併に取り組んでいきたい。

問 町長 いろいろの道を探っていくかと思う。

答 町長 小規模町村を切り捨てるような政策は反対である。町としてどのように受け止め、対処していくのか。

問 町長 町としても反対であるが、今後、情報をキャッチしながら、町村合併に取り組んでいきたい。

職員減で 財政再建を

問 予算の中で人件費が二十五%余りを

占めている。職員定数の百五十五人を百人ぐらいに削減しなければ、財政再建は不可能と思うが。

答 町長 秋本参事兼総務課長 十二年からの四年間で、約十%の人員削減を行ってきた。今後は合併して行政効率を高め、人件費の削減を図ることが一番の方法と思われる。

少子高齢化 対策は

問 子供が少なく長寿社会になり、国・県の経費が大幅に増えている。できるだけ少

ない予算で、少子化対策も含め効率的な対策はできないか。

答 町長 限られた福祉予算の中で、できるだけ少子化対策に向けていきたい。

問 人口の減少を食い止める必要がある。今後、結婚の促進とか子供を増やすなどの具体的方策はないか。

答 町長 光井福祉課長 出生率については国でも深刻な問題である。町も働く女性に対する支援策として、乳幼児保育、保育時間の延長、放課後健全育成事業などを実施している。



売上げ減少に悩む商店街



少子化対策の放課後健全育成事業

町施設の管理

外部委託で経費節減を

行革大綱の中で検討する

(参事兼総務課長)

溝田義昭 議員



外部委託で管理費節減を

問 環境改善センター、婦人の家、図書館、福祉センター、勝浦会館などを管理する人件費に約千八百万円余りの予算が組まれているが、これを外部に委託すると約五百万円程度の節減ができると思う。検討すべきでないか。

答 町長 財源難の時でもあり雇用関係に配慮しながら、前向きに検討したい。

答 秋本参事兼総務課長 行政改革大綱実施計画作成の中でよく検討したい。

迫る巨大地震 木造家屋の 耐震診断を

問 近い将来、南海地震が予測されているが、阪神淡路大震災では家屋の倒壊による死者がほとんどであった。木造住宅は十項目のチェックをするだけで簡単に耐震診断ができるので、広報に掲載して自己診断を行い、不安のある家屋は専門の診断士を役場の窓口で紹介してはどうか。また、そのための助成はできないか。

答 山平住民課長 広報への掲載や診断士の紹介については検討したい。助成については現状では無理だと思う。

ごみの不法投棄 どうする 現場の処理

問 ごみの不法投棄は、一人が捨てればその場所に次々と投棄されているのが実情だ。見つけ次第撤去することも必要ではないか。

答 山平住民課長 監視は主にボランティア、アパでお願いしているが、撤去となれば大変な労力を要するのでお願いすることは難しい。緊急雇用対策の特別交付金で二人の監視員を雇用し、パトロールを強化するので、その業務の中で行えないか検討してみたい。



目に余る不法投棄

職員に写真、 バーコード入りの 名札を

問 写真つき名札は今年度実施(参事兼総務課長)

問 職員の名札に写真とバーコードを入れて、残業時間などの管理ができるようにしてはどうか。

答 秋本参事兼総務課長 写真入り名札は、身分証明としても使用できるので今年度予算に計上して実施する。バーコードなどについては、よりよい方法を課長会等でもよく検討していきたい。

勝浦産農畜産物 安全、安心を 売りもの としては

問 国内の農畜産物が国際競争に勝つていく以外に方法はないと思う。農畜産物のトレーサビリティ(生産履歴の表示)に積極的に取り組み、勝浦産の農畜産物の安全、安心を売り込むはどうか。

答 町長 住民が職員を見える目も厳しくなっていることは認識している。職員とよく相談し前向きに検討したい。

答 戸川産業振興課長 生産履歴を記載し、その記録をもとに安全性や品質をアピールして、産地の信頼と信用を高めたい。よってネ市や、JAの部会、果樹研究会や営農講座等において、記帳運動を推進していきたい。

今後の見通しは

県退職予定者と交渉中（町長）

国清 栄 議員



問

町嘱託の宮農指導員が一月に退職し

たが、後任の見通しは。町長 県を退職予定の人と交渉中である。

答

指導内容は生産に對するだけでなく販売面も重要だ。

問

町長 今まで通りの指導をお願いしたいと思つてゐる。基本的には町やJAの職員が

もつと勉強し農家を指導すべきだ。また、農家も自らがチャレンジ精神をもつて取り組んでいかな

ければ今の時代は生き残れない。

農業プロモーション協議会の取り組みは

本年度は各部門で検証を行う

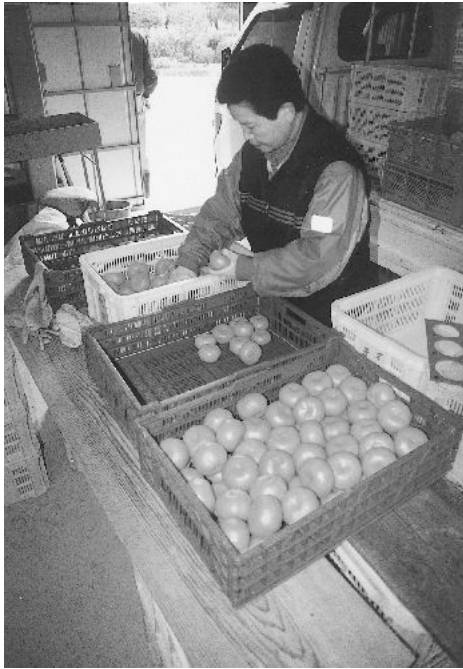
（産業振興課長）

問

農業、農村プロモーション協議会の活動状況と、今後、各部門の具体的な取り組みは。

答

戸川産業振興課長 自らが考え行動をおこす方向で推進してきたが、十五年度は今までの活動状況を各部門で検証を行いたい。



貯蔵庫の味を消費者に



足助町役場の名刺受

コンテナ販売補助継続を

要望しては

続けてもらおうよう努力する

（産業振興課長）

問

十二年からコンテナによるみかん販売が始まり三年経過したが、現状と課題は。また、県単補助の継続を要望しては。

答

戸川産業振興課長 十二年度二十トン、十三年四十、十四年六十トンと毎年販売量が伸び

来庁者の名刺受を設置しては

お金もかからないようなので検討したい（参事兼総務課長）

問

視察で訪れた愛知県足助町役場の玄

ている。今後の課題は品質の統一と、コンテナのリース料が百二十円かかることである。三年間は県単補助が1/2あったが今後は難しいと思われる。続けてもらえるよう努力したい。

環境に対する条例も必要では

水源環境保護条例の検討も

（町長）

問

地域の環境に悪影響をおよぼす恐れのあるもの、また大多数の人が反対するようなものは未然に規制できる条例等を考へては。

答

山平住民課長 大気汚染、自然環境水質汚濁それと景観の問題、それぞれ法令で決められているのでよく照らし合わせて検討していきたい。

答

町長 水源環境保護条例等も検討していく必要がある。

建設資材置場反対

請願採択に対する見解は

阻止に向け頑張る（町長）

西浜勝己 議員



としているので、県には反対の意見を述べてある。環境を守るため、断固とした姿勢で阻止に向け頑張る。

答 戸川産業振興課長 県も現地確認し、業者も交え数回事情を聞いています。埋立て材料は、壁土八割、建設残土二割とのことである。

答 山平住民課長 県の環境部に相談し

ているが、許可が下りた後、問題があれば早急に対応する。また、県としても監視体制を強めていくとのことである。

許可なく産業廃棄物を投棄

問 許可が下りていないうちに産業廃棄物を投棄し、五カ月以上も放置したままだったのを関係住民や農業委員が現地を確認している。通報すればすぐ対応すると言っている県環境部が、住民の強い要望に耳をかさなかつたのはなぜか。

また、問題になっている土地の隣地を同一業者から農振地除外申請が出されていると聞くがどうなっているのか。

答 山平住民課長 県には数回依頼した。また許可が下りていない段階なので、環境部ではなく、農林水産政策課の担当から業者に指導したが、業者の対応が遅かった。

答 戸川産業振興課長 問題となつている場所の隣地千九百㎡の農振地除外申請が提出されている。農業委員会で慎重に審議してもらいたいと思つている。

環境保護条例の制定を

制定を

問 勝浦立川の環境を守る会では、六十を超える看板を設置し反対運動を展開している。環境保護条例のようなものを制定できないか。

また、立川谷の水質検査を実施すべきでないか。

答 町長 水源地環境保護条例のようなものを早急に研究、検討



60を超える看板を設置し反対

してみたい。また、水質検査は補正予算で対応しても行いたい。

問 町長は町民の代表として、業者と話し合いを持つべきではないか。

答 町長 三月議会終了後、速やかに日程を調整して話し合いの場を持ちたい。

市町村合併の行方は

議員改選後に新たな枠組みを（町長）

問 一市四町の合併はざ折した。町長は

合併は必要だ。合併しても今よりもよくなる気が、しなければ悪くなると言っているが、住民説明会など周知の方針は。また、各種団体や各町の行事を考えると、新たな方向を見いだすのは町議会の選挙以後になるのではないか。

答 町長 一市四町協議会の解散の説明等に、広報や文書で全戸に知らせたい。新しい枠組みなどについては、四月は行事も多く取り組みは難しい。町議会の選挙後になると思う。

問

「清流に緑映え 人輝くまち かつら」勝浦町のキャッチフレーズである。立川区、棚野区、立川地域環境整備連絡協議会、勝浦土地改良区、大井ぜき土地改良区の五団体から提出された「建設資材置場に反対し、立川谷の清流を守れ」の請願を議会は一括採択したが、担当課の対応と町長の見解は。

答 町長 「勝浦川を町の宝に」を基本



申請が出されている現地を視察

合併

事務手続きは短縮されるか

神原 忍 議員



て、範囲を広く考え徳島市を中心に小松島市・石井町・松茂町までの合併ができるように支援して欲しいと、県知事に要望書を提出したとの新聞記事があった。

広い範囲で合併問題を検討する必要があるのではないか。

答 町長 人口減、財政難等を考えると将来は必ず広い範囲の行政に移行せざるを得ないと思う。

問 市町村合併をする際、およそ二十二月月かかっている事務手続きを半分に、また「法期限内に協議書ができていれば県や国の事務手続きができていなくても合併特例法を適応し、救済したい」とする国務大臣談話は実現するのか

答 理事 総務大臣談話はそのまま通達として県や市町村に来るものと思う。

問 徳島市の商工会議所、経済同友会代表が経済の再生は平成の大合併にかけているとし

会議の改善を

問 会議の開き方に対する批判をよく聞く。配った資料を長々と説明するより質問の時間を多くとって欲しいとの意見もある。会議を効率のよい開き方にする必要があるのではないか。

答 秋本参事兼総務課長 今後の会議は、資料説明は極力省き、出席者の発言を多くしてもらうような運営に努めた



効率のよい会議を

豆知識

経常収支比率

人件費、扶助費、公債費等減らすことが難しい経費が、収入（地方税、地方交付税、地方譲与税等）の中に占める割合で七十%が妥当とされている。

比率が高いほど財政にゆとりがなく、勝浦町は十四年度末で八十五%を超える見込みである。

財政力指数

税金収入の七十五%等を行政活動にどうしても必要な金額で割った数字で、不足分は交付税などで補われる。一を超えれば交付税措置はなく、超えた分だけ水準以上の行政サービスが可能になる。勝浦町は〇・二一三である。

臨時財政対策債

国の交付税特別会計の借り入れ

が多くなり過ぎたことから、市町村などが直接借り入れる方式に切り替えられ、返済分は後に交付税措置される借金である。
勝浦町では十五年度二億五千万円借り入れ、予算を組んでいる。

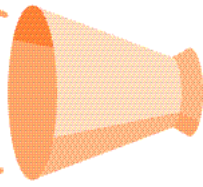
繰越明許費

毎年度の歳出は、その年度の歳入を充て、翌年に繰り越して使えないのが原則だが、事業の完了を予定して予算を立てたが、特別の事情で工事等が遅れ、年度内に完了できない場合に、特例として予算で定めて翌年度に繰り越して支出する費用。

繰上充用

歳出不足の場合、年度内であれば補正予算で対応できるが、会計年度が過ぎた後、不足したとき、翌年度の歳入を繰り上げて、これに充てること。

声のひろば



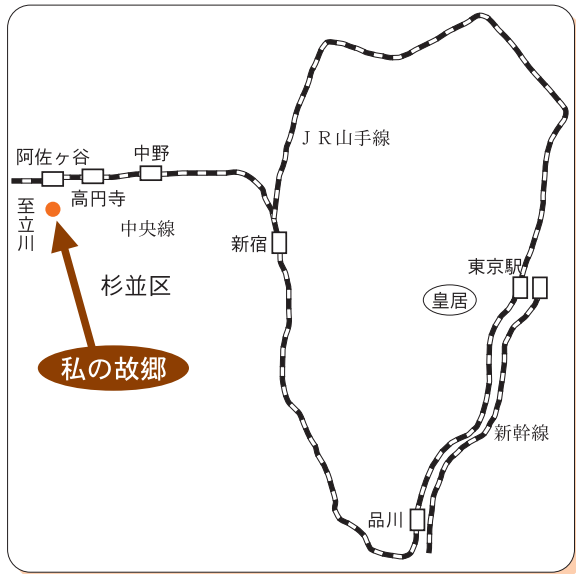
地場産業の活性化を



謝々比昌子さん(中角)
(東京都杉並区阿佐谷出身)

- Q** 故郷はどんなところですか。
A 東京の中心部で阿波踊りです。有名な高円寺や、当時は相撲の花籠部屋があり輪島関をよく見かけました。
- Q** 勝浦町に住むことになったきっかけは。
A 主人と東京の同じ職場で知り合い、その後退社して勝浦で結婚しました。
- Q** どんなお仕事をしていますか。
A 近所のガソリンスタンドへパートとして勤めています。

- Q** 勝浦町に来て驚いたこと、また感心したことがあれば。
A 初めて車で勝浦に来た時、夜だったせいもあって道路と田んぼの境がわかりにくく、よく走れるものだと思います。
- Q** 里帰りは。
A 高速バスや飛行機を利用



- Q** 家族構成は。
A 主人と主人の叔母、長男、長女、それと犬一匹です。
- Q** 勝浦町の印象は。
A 川で魚釣りや水泳、山では山菜採りができ、とても良い自然環境です。また地域の連帯感が強く、婦人会や子供会、愛育班の活動が盛んな所だと思います。

- Q** 好きな言葉は。
A 努力
- Q** 趣味は。
A スポーツ
- Q** どんな町になればよいと思いますか。
A 町の産業がもつと活性化すればと願っています。
- Q** して年に三〜四回帰っています。



編集後記

ワラビ・タラ芽・竹の子と山菜が真つ盛りの季節となりました。世間がどのように変化しても自然の芽吹きは変わりません。三月議会では一年間の予算を審議しました。新しい芽が出て町が活性化するという予算ではありませんが、議会も町も知恵を出し合って農業や福祉、特に子育て支援に力を入れようとしています。

市町合併も一市四町の枠組みが崩れ先行き不透明になりました。多くの課題を抱えまだまだ厳しくなる町の将来について、皆様と共に真剣に考えていかなければと思っています。ご意見をどしどし届けてください。(重)

